

日本学術会議哲学委員会シンポジウム
「今、なぜ「国家」が問われるのか」

宗教、言語、領域のはざま、あるいは広がり —アラブ世界の視点から—

八木久美子
(東京外国語大学)

アラブ人とは

= アラビア語を母語とする人

宗教、人種とは関係のない概念

イスラム教徒のアラブ人とともに存在する

キリスト教徒のアラブ人、ユダヤ教徒のアラブ人

元国連事務総長ブトス・ガーリー
(1922~2016)

俳優オマー・シャルフ
(1932~2015)

「アラブ連盟」加盟国



<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A2%E3%83%A9%E3%83%96%E9%80%A3%E7%9B%9F#>



<http://www.leagueofarabstates.net/ar/aboutlas/Pages/CountryDataDetails.aspx?RID=2>

アラブ連盟の紋章

「アラブ連盟」というアラビア語が中心に



国連の紋章



加盟年		1人当たり GDP(ドル)	GGGR順位 (2022年)
1945年	エジプト・アラブ共和国	3,876	129
	シリア・アラブ共和国	1,265	
	イラク共和国	5,084	
	ヨルダン・ハシミテ王国	4,405	122
	レバノン共和国	2,670	119
	サウジアラビア王国	23,585	127
	イエメン共和国	690	
1953年	リビア国	6,018	
1956年	スーダン共和国	764	
1958年	モロッコ王国	3,496	136
	チュニジア共和国	3,924	120

1961年	クウェート国	24,811	130
1962年	アルジェリア民主人民共和国	3,765	140
1971年	アラブ首長国連邦	36,284	68
	バーレーン王国	22,232	131
	カタール国	61,276	137
	オマーン(スルタン)国	16,439	
1973年	モーリタニア・イスラム共和国	1,723	
1974年	ソマリア連邦共和国	445	
1976年	パレスチナ国	(3,664)	
1977年	ジブチ共和国	3,363	
1993年	コモロ連合	1,494	134

エジプトという国

20世紀初めまでオスマン朝の一部

1805年に半独立王朝として成立したムハンマド・アリー王朝
の下で、アラブ世界では最も早く近代化・西洋化政策に着手
→アラブ世界の文化的・政治的中心

スンナ派イスラム（イスラム教徒の9割を占める宗派）の
最高教育・研究機関であるアズハルが首都カイロに存在
→スンナ派イスラム世界の教育・学問的中心

人口の9割はスンナ派イスラム教徒
1割弱がキリスト教徒

アラブ諸国のなかで圧倒的な人口の多さ（1億2千万）
24歳以下が人口の50%以上。若年層で高い失業率

主な外貨収入源

石油・天然ガス、スエズ運河の通航料、在外労働者からの送金、観光

フセイン・マルサフィーの『8つの語の書』（1881年）

当時、エジプトで盛んに議論された8つの語について解釈を施したものの
「**共同体**」、「祖国」、「政府」、「正義」
「**圧政**」、「政治」、「自由」、「教育」

共同体を形成しうる三つの紐帯

①**言語**

→アラビア語母語話者の連帯意識

②**土地（場所）**

→同じ土地（場所）に生きる者の連帯意識
（エジプト人意識）

③**宗教**

→イスラムの信仰を持つ者の連帯意識

20世紀初頭の国民国家建設を目指す動き

前提となる歴史的背景

オスマン朝の崩壊（1922年）と西洋列強の介入により、
カリフの下でイスラム教徒が統合される状況が消滅

エジプト・ナショナリズムの高揚

1919年革命:エジプトを保護領化していたイギリスからの独立運動
宗教の差を超えた民衆蜂起：「国民統合」の象徴
(1922年にエジプト王国として独立)

アラブ民族主義の高揚と後退

1958年、エジプトとシリアが合併し
「アラブ連合共和国」誕生

1961年、シリアの離脱により解体

1967年、第三次中東戦争におけるアラブ側の惨敗

1970年、ナセルの急死

1972年、エジプト、シリア、リビアで
「アラブ共和国連邦」結成（のちにスーダン参加）

1977年、解体

1970年代後半からの湾岸産油国への「出稼ぎ」の拡大

1973年のオイル・ブーム（オイル・ショック）後

湾岸アラブ諸国では石油輸出収入を基盤とする経済開発が本格化
しかし、これらの国では労働力が不足

資源のないアラブ諸国から労働力が流入

エジプトはアラブで最大の労働力送出し国に

➡出稼ぎ先で経験するアラブ世界のなかでの断絶の深さ

湾岸アラブ諸国の外国人の割合および送出し国

湾岸アラブ諸国の人口のうち外国人が占める割合

バハレーン	クウェート	オマーン	カタル	サウジアラビア	アラブ首長国連邦
54.1%	68.8%	29.4%	85.0%	32.1%	88.5%

湾岸アラブ諸国への労働者送出し国上位6か国

バハレーン	クウェート	オマーン	カタル	サウジアラビア	アラブ首長国連邦
インド	インド	インド	インド	インド	インド
パキスタン	エジプト	バングラデシュ	パキスタン	パキスタン	パキスタン
エジプト	バングラデシュ	パキスタン	ネパール	エジプト	スリランカ
イラン	スリランカ	エジプト	イラン	イエメン	エジプト
フィリピン	パキスタン	スリランカ	フィリピン	フィリピン	フィリピン
スーダン	フィリピン	フィリピン	エジプト	バングラデシュ	バングラデシュ

細田尚美『湾岸アラブ諸国の移民労働者』2014年、をもとに作成

1980年代からのイスラム復興 イスラム教徒という宗教的アイデンティティの高まり

イスラム復興、イスラム教徒意識の高揚は、国境線を超えたイスラム共同体への帰属意識の高まりなのか？

イスラム共同体（ウマ・イスラミーヤ）とは

唯一神に帰依し、イスラム法という行動指針に従って生きるすべての人間を包摂する集団
人々の意識のなかに存在するもの

地理的な境界線を持つ集団ではなく、制度化された組織でもない

「イスラム主義」の拡大と急進化

「イスラム主義」

イスラムの教えに基づく国家建設、社会改革を目指す思想・運動
教育のある一般信徒が中心となることが多い

エジプトで1928年に設立され、急激に拡大した「ムスリム同胞団」
がその先駆け

イスラム復興のなかで、1990年代に一部の勢力が急進化

一つの国あるいは社会の（再）イスラム化という方向性への傾斜
世界のイスラム教徒の連帯、よりも

宗教の違いによるエジプトの分断へ

異教徒の周縁化：キリスト教徒は「庇護民」という位置づけ

土地（場所）、言語、宗教 三つの輪の重なりとずれ：包摂と排除

